獣霊碑から見た往年の谷田部市街地の賑わい

内町四ツ角交差点の側に立つ「獣霊碑」

馬頭観音の意味合いをもつ巨大な石碑

内町四ツ角交差点の側に一際目立つ石碑が存在する。表側の中央に大きく「獣霊」と刻まれ、その裏側には「大正13年7月22日建立」という建立年月日と協賛した多数の寄付者名・寄付金額が刻まれている。寄付者の中には、個人の他に谷田部町署轄内牛馬商、谷田部町牛馬車営業組合、谷田部町料理店、谷田部町芸妓営業などの団体名が見受けられる。この獣霊碑は、いわゆる各地に点在する馬頭観音という意味合いをもった巨大な石碑である。

獣霊碑は、かつて荷物輸送の主役が牛馬であった時代における谷田部市街地の活況と、この活況に関わる人々の牛馬への哀悼の念が刻まれた貴重な遺産である。

谷田部に獣霊碑が建立された大正13年は、関東大震災の翌年であると同時に、土浦から谷田部を経由して水海道に至る「常南電気鉄道」（現在一部が電鉄道として市道整備されている。）の予定路線が着工された翌年でもある。

寄付者の内訳、地域別で見ると石碑建立の場である谷田部町内が最も多いが、大正期における谷田部は、牛馬による交通の重要な結節点としての機能を持ち、筑波郡を越えた寄付は、水海道・藤代・東京方面からの寄付が存在することからも多方面から谷田部の繁栄の一部を支えていたことが窺える。石碑の建設費用を推計すると、寄付金額の集計から、約千二百万円相当になるものと推測される。（寄付金総額千六百八十二円を大正期の金価格1g／1円で換算。）

北条、上郷に次ぐ第3位の市街地、谷田部。

かつての谷田部は、今日と比較にならない程の賑わいを見せた時期があり、大正期、牛馬や荷車による谷田部と農村部の交易が盛んであった頃には、多くの牛馬商が居住すると共に飲食店が多数存在し、さらに芸妓の活動が繁栄した。また、谷田部市街の当時の広告から検討すると、米穀、肥料、燃料、呉服、洋品、履物、塩、鮮魚、乾物、煙草、和洋酒、茶、菓子、薬、書籍、文具、自転車、ミシン、陶磁器、荒物、小間物、材木などを販売する商店が存在し、谷田部市街全体で多様な需要に応えられる商店構成を築いている。また、近世における陣屋所在地の機能を受け継いで郡役所が置かれたことから、この郡役所の存在が他の管理行政機能を引き寄せ、税務、郵便、警察、裁判、学校などの諸機関が立地された。

これらの状況を鑑みると、谷田部は筑波郡内では経済活動が北条、上郷に次ぐ第3位の市街地であったが、一方で政治行政機能の集約を合わせ持つ重要な中心地であったことが窺える。是非一度足を運びご覧ください。

昭和60年頃の谷田部商店街。
個性的でハイセンスな店舗が並ぶ。

伊賀七くんは、町内小学校6年生の作品

◎編集後記

谷田部に過ぎたるもの…。

谷田部の魅力を発信しようと前号に続き「歩いて発見。谷田部街道めぐり 歴史編」を発行しました。谷田部市街地に近いＴＸみどりの駅周辺は、若い世代の転入者がコロナ禍にあって増加傾向にあり少しでも足を運んで貰えればと願っています。

今号では、鎌倉・室町時代の政情混乱な中で新たな教説が浸透し谷田部にも開基された各寺院を紹介します。また、「私たちが誇る郷土の偉人飯塚伊賀七」と同時代に谷田部藩医として活躍した広瀬周伯、周度父子を紹介します。本協議会の活動範囲は、谷田部小、谷田部南小、みどりの学園の各学校区ですが、特に前述のみどりの地区に新たに市民となった若い方々に谷田部の魅力を是非知って貰いたいと思っています。

最後に、谷田部地域に先人から言い伝えられた言葉に次の文言があります。「谷田部に過ぎたるものが三つあり、不動並木（今は現存しませんがつくば工科高校前に林立した松並木）に広瀬周伯・周度、飯塚伊賀七」とうたわれた。

M記

不動並木

企画・発行 令和3年10月1日
編集・制作 谷田部市街地活性化協議会・ケーズグラフィック
協力 つくば市 都市計画部 周辺市街地振興課

https://www.facebook.com/yatabe.tuskuba

谷田部市街地活性化協議会
facebookページ